

國吉信義博士（元マーチ基地環境保全官）によるコメント

### たまり水について

“たまり水とはサッカー場西側でドラム缶を掘り出したときの窪地にたまった水です。ドラム缶があった付近 3 箇所まで 3.8m の深さまで、ボーリングをしており、その柱状図が示されています。柱状図によると、地表から 2m 位まではシルト質粘土で、その下 1.8m 位は粘土質の地層です。粘土は水を通さない非浸透の地層です。その上にあるシルト質とは非常に細かい砂で、水を含むが浸透性は低い。全くの非浸透性ではない。たまり水はドラム缶を掘り出したとき、周囲のシルト質粘土の壁から、じわじわとにじみ出て、窪地にたまった水でしょう。ドラム缶はシルト質の地層に埋められていました。

防衛局は、たまり水が出た周辺は浸透性の低い地層だから、ダイオキシンを含む水が直下の地盤に浸透する可能性は小さいと結論しています。ドラム缶が発見された所ではシルトの下に 1.8m 位までは粘土層があります。この粘土層はどの程度まで深く、広く分布しているかわかりません。シルト質地層にふくまれている水は粘土層で遮られているから直下には浸透しにくいですが、横にはゆっくりだが、動くはずで、横に動いて、粘土のないところに来たら、水は下に動くでしょう。ドラム缶が埋もれていたシルト層がどの程度広がっているか、ダイオキシンを含む水が拡散していないか知りたいです。

米国地質調査所が軍の依頼で、1965 年に嘉手納基地の地下水を調べました。その地下水分布図によると、サッカー場あたりが **Kadena Aquifer**（帯水層）の境界線あたりになっています。防衛局のボーリングで見つかった粘土層がどこまで広く分布しているか知りたいです。“

### 沖縄県環境保全課の調査について

“この報告書によると、嘉手納基地内の井戸 2 箇所と運動公園 2 箇所で地下水を採取しています。4 箇所とも分析結果は健康に害する成分は基準以下だったと報告しています。

まず、運動公園内の地下水採取の場所、ドラム缶発掘場所との位置関係、井戸から採取したのか、井戸の深さや水位、井戸のスクリーンの位置、過去にも採取して調べたのか、など知りたいです。県の環境保全課は基地の環境汚染を調べているのか、専門家がいますのか。“

### 環境省の役割について

防衛局は国を敵からまもるのが本職でしょう。環境を守るのは本職でないと思う。アメリカの EPA は” to protect human health and environment ” といって両方を本職としています。沖縄の基地の環境問題でなぜ日本の環境省が関与していないのか。環境省には基地汚染の専門家がいますはずで、私が嘉手納基地の環境保全部で働いていたとき、東京の環境省の人たちが定期的に嘉手納基地に来て、排水口のサンプリングをしていました。私が案内しました。

（沖縄・生物多様性市民ネットワーク河村雅美へのメールより抜粋）